

のりちゃんさん

信愛幼稚園園長通信 NO. 3

2022年5月20日

発行：横田 法子

今年度から黒門からの登降園をお願いしています。横断歩道への飛び出し防止、園舎入口への距離、職員の視野・視界、保育中のセキュリティなど、安全確保の観点を優先しており、その他の面で保護者の皆様にはご不便を感じる向きもあろうと思いますが、ご理解とご協力に感謝いたします。

登園後、身支度を終えたら自由遊びです。お天気のよい日には、早く外に出たいお子さんもいます。年長のゆりぐみさんでは、これまで長い針が3になるまではお部屋で過ごすお約束でした。「長い針3まで」とは15分のこと。外遊びの時間を待つお子さんに変化が生じたと聞きました。時計ではなく窓から外を眺めている。開放された「黒門」が閉じられると外に出てよいか担任に聞くのだそうです。閉まる！と思ったら半分でとまり、フライングでブーイング... もあるようで、様子を想像すると笑ってしまいます。

ご存じの通り、黒門は定時でオートロックされません。その日の登園状況によって閉門時間は前後します。「長い針3まで」が通用しないことを体験したこどもたちは、大人が言うことにただ従うのではなく、「安全確保のため」という意図を理解した上で、門が閉まったかどうかを観察し状況判断を自らするようになったわけです。予想外のうれしい変化です。

自分で自分の行動を選ぶとることのできる人に育って欲しいと願います。ただ指示に従ったり、誰かに追随したりするだけでなく、主体的に自分でするには、状況や相手に関心を向けて把握する力や洞察力が必要です。よく見てよく聞く力、よく考える力、周囲を想う力を育てたいですね。そのためには、お子さんの「やりたい」思いと、自分で判断する経験が大切です。判断違いもするでしょうが、安心して失敗を繰り返すことのできる場、練習を重ねる場、それが学びの場だと私は思っています。成功体験は「もっとやりたい」の意欲に繋がります。うまくいかないことが失敗体験ではなく成功体験へのプロセスになるように、やってみたことを認め、あきらめずに次へと向かうように励まし、次の環境を整えるのが私たちの役割。

神さまは、主体的に生きるために必要な力をそれぞれの命に備えてくださっている。その信頼がキリスト教教育の根幹となっています。それゆえ、お子さんに備えられている内なる力を信じ、その芽が息吹き豊かに伸びゆく環境づくりにつとめて行きます。